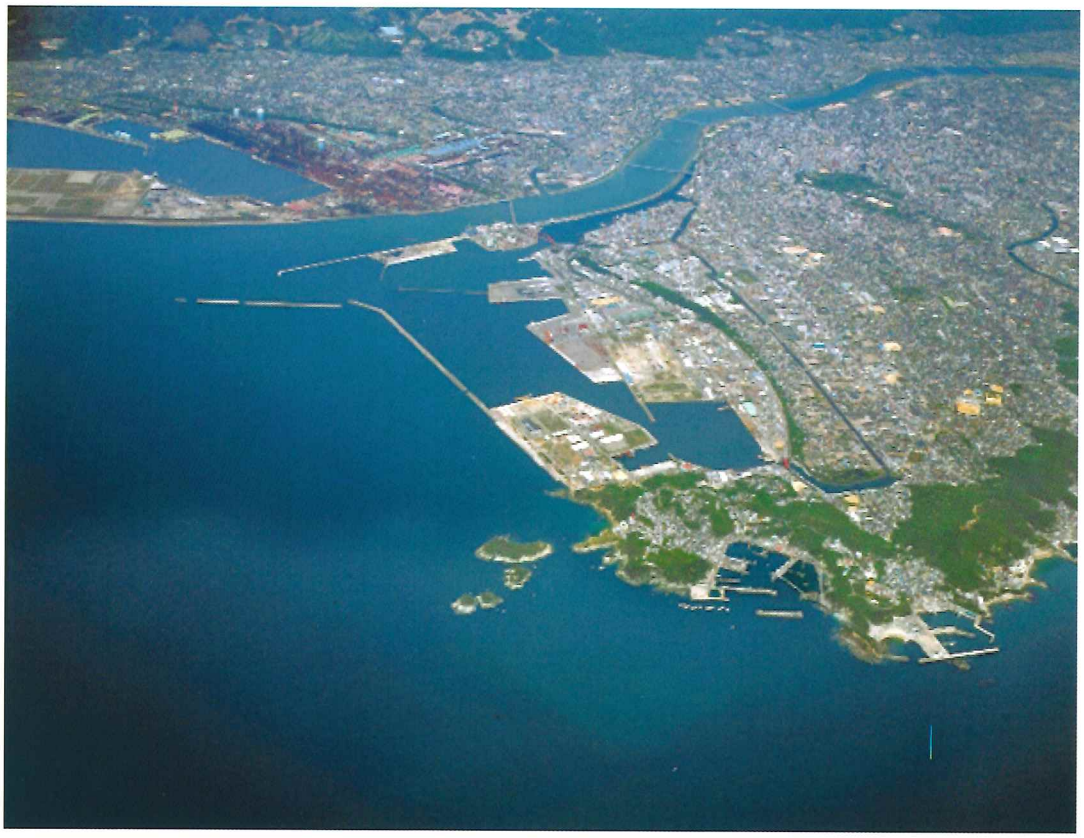
会　　報

第　2　号



公益社団法人　神戸海難防止研究会

THE KOBE MARINE CASUALTY PREVENTION INSTITUTE

表紙写真

和歌山下津港本港区

和歌山県県土整備部
港湾空港局提供

目　　次

第３回 月 例 会 概 要

(1) 事業経過報告等…… 1

(2) 講演　「神戸市客船誘致の取り組みについて」

神戸市みなと総局　振興部

振興課長　　山 村　　昭 氏

第４回 月 例 会 概 要

(1) 事業経過報告等…… 11

(2) 講演　「海上交通政策の視点からみる航行安全」

海上保安大学校

海上警察学講座　主任教授　　松 本 宏 之 氏

事 業 報 告

平成２４年度第４回船積危険品研究委員会…… 17

平成２４年度大阪湾における交通流交差海域等の安全確保に関する調査研究第１回委員会…… 19

Ａ社着離桟に係る航行安全対策調査第１回委員会…… 22

平成２４年度第５回船積危険品研究委員会…… 24

平成２４年度津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策調査第１回委員会…… 30

平成２４年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議実施結果…… 33

会 務 報 告

第３回業務運営会議…… 55

第４回業務運営会議…… 56

事 務 日 誌 抄…… 57

お 知 ら せ…… 58

第３回　月　例　会　概　要

１　日　　時　　平成24年7月23日(月)15:00～16:00
２　場　　所　　神戸市立　こうべまちづくり会館　２階ホール
３　出 席 者　　22名
４　概　　要

(1) 事業経過報告等

世良専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講　演

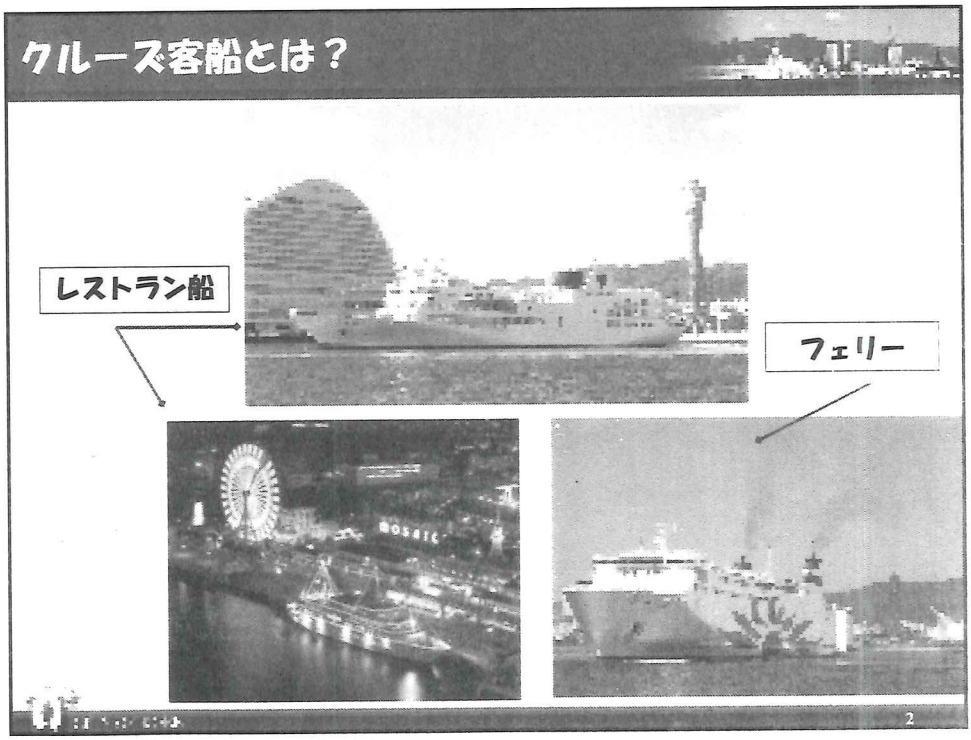
神戸市みなと総局　振興部振興課長　　山村　昭　氏により「神戸市客船誘致の取り組み」と題し、講演が行われた。

《第３回月例会講演資料》

「神戸港と客船」

講師　神戸市みなと総局振興部
振興課長　山　村　　昭　氏





クルーズ客船とは？

・レジャー目的 ⇔ ×移動手段
　～船そのものが目的地～
・動く「ホテル」
　荷造りの煩わしさから解放
　目覚めると次の寄港地
　充実した船内イベント・食事


アムステルダム


ぱしふぃっくびいなす


クイーンエリザベス２

3

世界と日本のクルーズ人口（2011年）

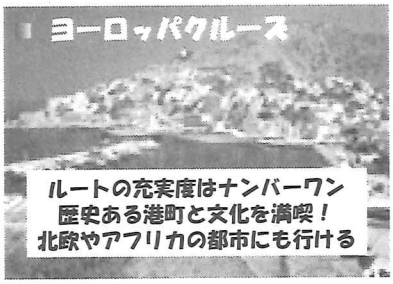
世界
約1，636万人
（前年比10．4％増）
クルーズの本場
北米が約7割
（出典：CLIA）

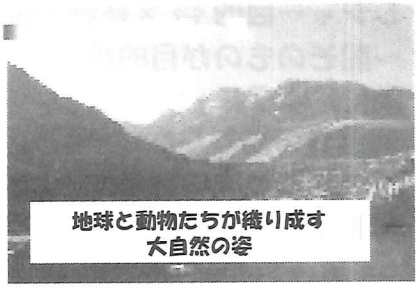
世界全体の
約1．1％

日本
約18．7万人
（前年比1％減）
うち、外航クルーズの乗客
⇒10万4千人（1％増）
（出典：国交省）

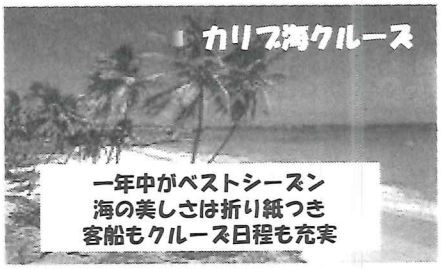
4

世界のクルーズ









5

ヨーロッパクルーズ
～中世の面影を残す古都から北欧、アフリカまで～

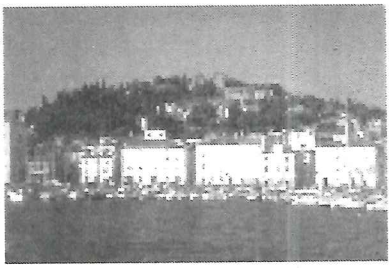
○東地中海（ベニス、ローマ、ジェノバ等発着でイタリアやギリシャ、クロアチアへ）

○西地中海（サボナ、ローマ、ジェノバ発着でイタリア、南仏、スペイン、北アフリカへ）

○フィヨルド（コペンハーゲン発着で北欧へ）

○バルト海（キール発着でロシアへ）

○ベストシーズンは、５～１０月

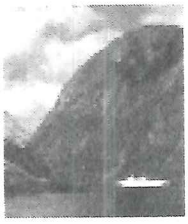


アドリア海





エーゲ海



フィヨルド

6

カリブ海クルーズ
～カリビアンブルーの海と南米の遺跡に遊ぶ～

○ダイビングやシュノーケリングなどのマリンアクティビティが盛ん

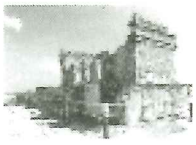
○西カリブ海エリアでは、マヤ遺跡[illegible]

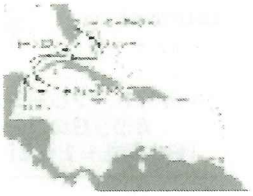
○東カリブ海エリアでは、大航海時代の遺跡を楽しめる

○いずれもフロリダ[illegible]が主流

○ベストシーズンは、6、7月、12～3月（9月前後にハリケーンがやってくる）







フロリダ発着
7泊8日のコース
（日本発着＋2日程度）

7

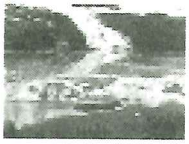
アラスカクルーズ
～氷河と海の動物たちの世界～

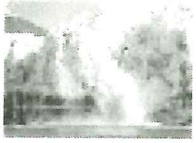
○カナダ、アメリカ西海岸発着で海岸線沿いに航行

○乗船したままで氷河やフィヨルドを観光

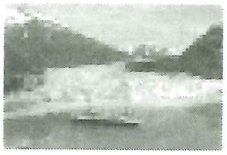
○大自然や海の動物たちの生態、先住民の文化に触れる旅

○ベストシーズンは、5～9月











スワード発バンクーバー着
7日8日のコース
（日本発着は＋1～3日）



8

アジアクルーズ
～三大クルーズエリアに匹敵する新興エリア～

○発着港（シンガポール、上海、香港等）までのアクセスの良さ

○比較的リーズナブルで、短期のクルーズが充実

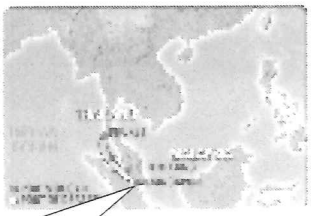
○個性豊かな食文化。ベトナムの世界遺産、ハロン湾の多島海や、海南島、プーケット島などの自然美から、シンガポール、クアラルンプールなどでの街遊び



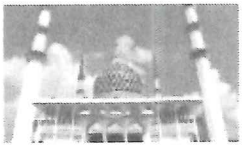
○ここ数年で大手欧米クルーズ船社が中国マーケットに参入！



2012年日本寄港予定の
「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」



プーケット、マレーシアを巡る
4泊5日のコース
（日本発着＋1～2日程度）





9

その他のクルーズ

■ リバークルーズ



ライン川



ナイル川



ミシシッピ川

■ ハワイクルーズ

ホノルル発着、オアフ島、ハワイ島、
マウイ島、カウアイ島の四島めぐり



■ オセアニアクルーズ

真冬の日本を抜け出して
南半球のベストシーズンへ





■ その他にも…



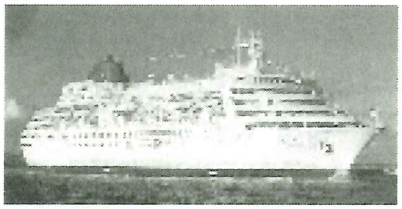
10

日本におけるクルーズ元年

- バブル景気の真っ只中、旅行業界や商社、海運会社が欧米型のクルーズに注目
- 日本で初めてのクルーズ客船、「おせあにっくぐれいす」（1997年に引退）、「ふじ丸」（現在も現役）が建造された1989年（平成元年）を、わが国のクルーズ元年と呼んでいる
- 当時のクルーズ人口は15万3千人（国交省調べ）



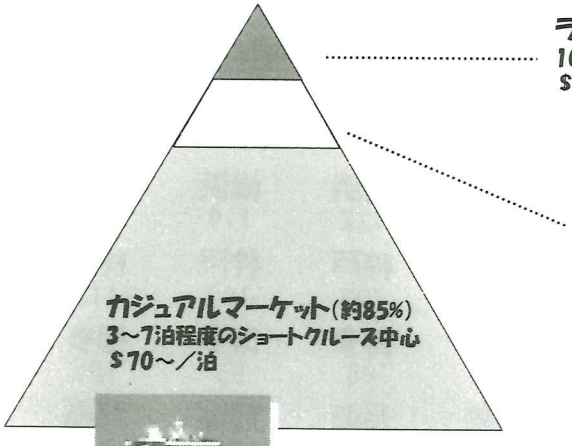
「クリッパー・オデッセイ」として活躍する旧「おせあにっくぐれいす」

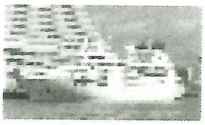


ふじ丸（三菱重工業神戸造船所製）

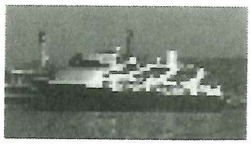
11

客船のクラス





シーボーンプライド



フォーレンダム



レジェンド・オブ・ザ・シーズ

12

神戸港の客船ターミナル

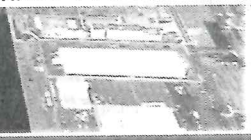




・市街地やハーバーランドなど商業施設にも近く、景観の良いウォーターフロントに立地。
・岸壁延長：286m　水深－9m
　⇒ 5万トンクラスの客船の着岸が可能。

・岸壁延長：649m　水深－12m
　⇒ 15万トンクラスの大型客船の着岸が可能。
・ポートライナーで「三宮駅」から5分、「神戸空港」から13分
　⇒ アクセスに優れフライ＆クルーズに最適

いずれのターミナルもボーディングブリッジ、CIQ機能を完備。



13

神戸港への客船入港隻数

- 2011年：東日本大震災の影響で多くの外国客船が日本への寄港を見合わせる中、年間100隻の大台を達成（日本籍船93隻、外国籍船7隻）。
- 2012年：震災後で最多となる110隻の入港隻数を目標（現時点で外国客船の入港は25隻を予定）。

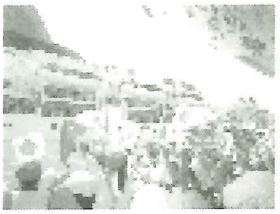
2007	2008	2009	2010	2011	2012
横浜 123	横浜 120	横浜 126	横浜 122	横浜 119	横浜 139
神戸 100	神戸 97	神戸 100	神戸 103	神戸 100	神戸 113
長崎 44	那覇 56	那覇 57	博多 84	博多 55	博多 101
名古屋 30	鹿児島 44	長崎 49	長崎 54	那覇 53	那覇 93
那覇 30	博多 35	博多 42	那覇/鹿児島 52	名古屋 28	長崎 59

14

クルーズ船社・乗船客に満足いただける「おもてなし」



消防音楽隊による歓迎演奏

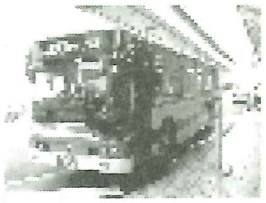


多くの市民や客船歓迎サポーターによるクルーズ客船のお出迎え





臨時観光案内所・外貨両替



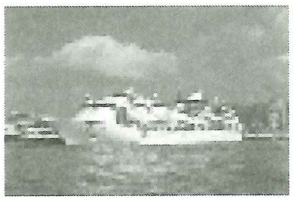
市街地まで無料シャトルバスを運行

・通訳・案内ボランティア
・土産物コーナー
・クルーパーティー

15

「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」が入港！

～神戸港過去最大のクルーズ客船～



1．本船概要
総トン数　137,276万トン　全長　311.12m

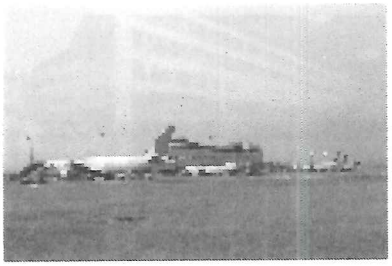
2．入出港概要
着岸：7月　9日（月）13:45　　離岸：7月 10日（火）18:00
乗客数：3,541名（国籍：42カ国）、乗組員：1,232名
乗客内訳：中国2,897名、オーストラリア114名、アメリカ93名、香港90名など

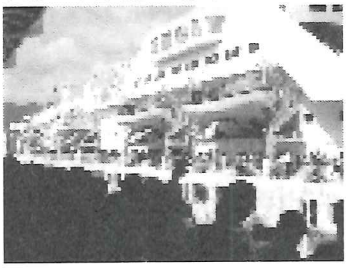
3．観光ツアー
観光バス：２日間で計１５０台
主な目的地：①灘の酒蔵・北野・南京町
②市内商業施設（三宮～元町）・六甲山
③マリンピア神戸・明石海峡大橋　など

16

今後の課題

- アジアクルーズのさらなる誘致
- クルーズ客船の大型化への対応
- 瀬戸内海クルーズの振興
- フライ＆クルーズの推進
- 乗船客の神戸観光の促進
- 歓迎行事への市民参加の促進
- クルーズ人口の拡大







第４回　月　例　会　概　要

１　日　　時　　平成24年9月20日(木)15:00～16:30
２　場　　所　　神戸市立　こうべまちづくり会館　２階ホール
３　出 席 者　　38名
４　概　　要

(1) 事業経過報告等

世良専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講　演

海上保安大学校　海上警察学講座　主任教授　松本　宏之　氏により「海上交通政策の視点からみる航行安全」と題し、講演が行われた。

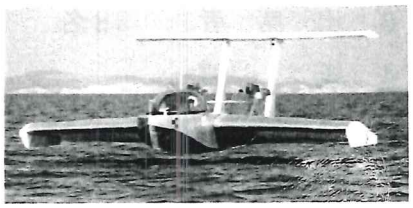
《第４回月例会講演資料》

海上交通政策の視点からみる航行安全

講師　海上保安大学校　海上警察学講座
主任教授　松　本　宏　之　氏

１．海上交通の近年の傾向

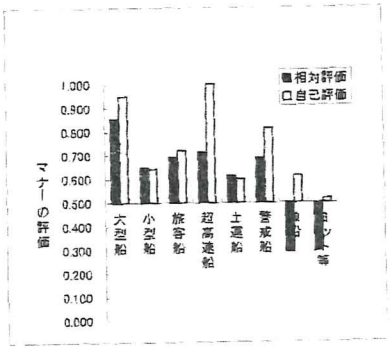
ア)高速化（ジェットフォイル、ＷＩＧなど）
イ)大衆化・素人化（海洋レジャー、ミニボートなど）
ウ)競合化（海域利用調整など）
エ)国際化
オ)安全意識のズレ



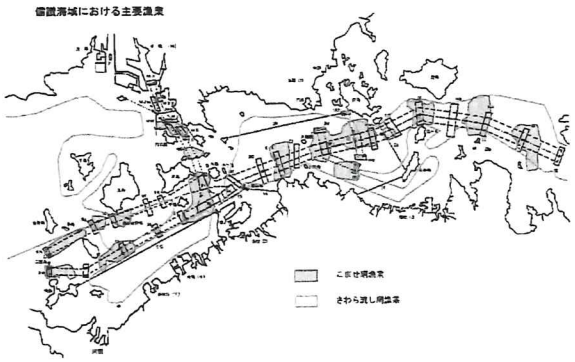
東京湾におけるインシデントと海難の発生件数と発生確率

	最上位国	No．２	No．３	No．４	No．５	No．６
インシデント発生件数	パナマ	中国	韓国	ベリーズ	カンボジア	セントビンセント
インシデント発生確率	韓国	オランダ	ベリーズ	中国	ロシア	英国
海難発生件数	パナマ	韓国	中国	米国、キプロス、セントビンセント、ベリーズ		
海難発生確率	ベトナム	米国	韓国	セントビンセント	オランダ	フィリピン

操船マナー（明石海峡）



備讃瀬戸海域の漁業



２．近年の国際動向―――イタリアによるCOLREG改正案（IMO）
（商船のプレジャーボートに対する航行優先権）

COLREG　A部　総則

第3条（一般的定義）

(n)「プレジャーボート」とは、あらゆるタイプの推進方式を用いて推進する長さ20メートル未満の船舶のうち、プレジャー目的および傭船されたプレジャー目的で運航するすべての船舶をいう。

第18条　各種船舶の責任

(f)(iii)　第3条に定義する船舶若しくは長さ20メートル未満の推進機関又は帆を用いて推進する帆船は、長さ20メートル以上の船舶の進路を避けなければならない。

３．交通管理の側面からの安全対策 ―――４Ｅの原則

①Enforcement（強制作用）―――ルール、指導取締り、制度・手続き
　ルールに従うもののみが利用する資格をもつ。

②Education（教育・広報）―――安全講習、訓練、広報活動
　自発的な遵守と尊重「モラール」

③Environment（環境）―――航路幅、交通量、航行援助施設、気象海象
　人・船舶・通路のまわりにある諸々の条件

④Engineering（科学的思考技術）
　秩序ある効率性の高い社会システムを作り出すための科学的な理論

４．海上交通法規の法概念の定量化

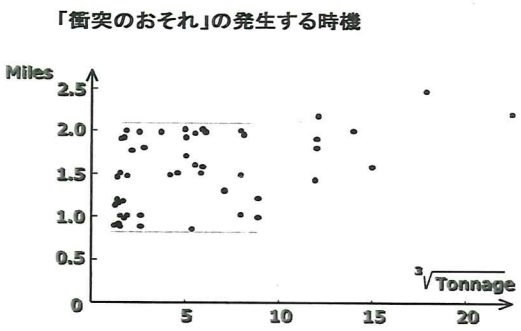
海上衝突予防法第８条第４項（安全な距離）と第７条第４項（衝突のおそれ）

海上衝突予防法

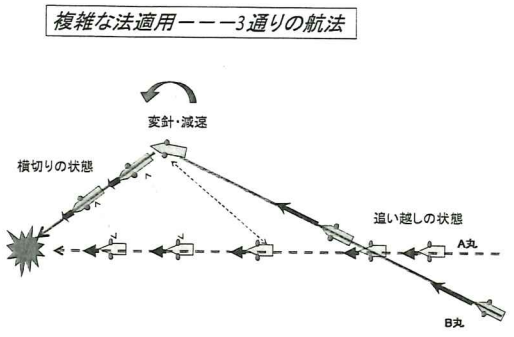
第８条（衝突を避けるための動作）

４　船舶は、他の船舶との衝突を避けるための動作をとる場合は、他の船舶との間に安全な距離を保つて通過することができるようにその動作をとらなければならない。この場合において、船舶は、その動作の効果を当該他の船舶が通過して十分に遠ざかるまで慎重に確かめなければならない。

計量法学的分析（海難審判庁裁決）



５．航法適用の困難性



海上衝突予防法

第 13 条（追越し船）

追越し船は、この法律の他の規定にかかわらず、追い越される船舶を確実に追い越し、かつ、その船舶から十分に遠ざかるまでその船舶の進路を避けなければならない。

第 15 条（横切り船）

二隻の動力船が互いに進路を横切る場合において衝突するおそれがあるときは、他の動力船を右げん側に見る動力船は、当該他の動力船の進路を避けなければならない。

第 39 条（注意等を怠ることについての責任）

この法律の規定は、適切な航法で運航し、燈火若しくは形象物を表示し、若しくは信号を行うこと又は船員の常務として若しくはその時の特殊な状況により必要とされる注意をすることを怠ることによつて生じた結果について、船舶、船舶所有者、船長又は海員の責任を免除するものではない。

6．船舶衝突事件における三つの過失

(1) 責任追及における法的結果の異同

①刑事上の責任追及・・・刑法（事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現することを目的とする。）

②行政上の責任追及・・・海難審判法（海難を発生させた海技士等に対する懲戒を行うため、海難審判所における審判の手続等を定め、もつて海難の発生の防止に寄与することを目的とする。）

③民事上の責任追及・・・民法（被害者の上に発生した損害の公平な分担を目的とする。）

(2)過失のとらえ方

民事＞刑事　　海難審判＞刑事

刑事事件（裁判所における法的判断）―――謙抑主義

海難審判（海難審判所における海事専門的判断）―――秩序罰（民事の延長線上）

(3)過失の認定方法

刑事－－－行政法規違反が直ちに「結果回避義務違反」となるわけではない。

・直近過失　　*衝突から過去に遡る法的思考*

行政－－－海上衝突予防法に規定された義務違反の検討が中心。

・航法の適用　　*初認から衝突へ至る法的思考*

7．航行安全対策の指針の体系化

(1)問題提起

港湾計画、工事・作業、大型船・危険物積載船の出入港等、海上交通の安全を確保するために各種の航行安全対策が検討される。それらの内容は地域的特性等を考慮することから、必ずしも統一する必要はないものの、肝心な対策が脱落していたり不備があったりすると、船舶交通の安全を確保できない可能性がある。

(2)大型船の出入港に関する項目

船種、総トン数、全長、船幅、最大喫水、風圧面積・・・、着桟基準（風速、波高、視界、潮流、接岸速度、余裕水深、時間帯・・・）、離桟基準（風速、波高、視界、潮流、接岸速度、余裕水深、時間帯・・・）、荷役中止基準（風速、波高、視界・・・）、水先人、曳船、シミュレーション、安全管理体制、潮汐利用、運航調整・・・

(3)評価対象

大型船出入港、浚渫工事、埋立工事、架橋工事、ケーブル架設工事、警戒船の意義など

【参考文献】

・拙稿、国際海上衝突予防規則の改正案に関する研究、日本航海学会論文集第122号。
・拙稿、外航船インシデントと船籍についての現状分析、海保大研究報告第50巻第1号。
・拙稿、船舶衝突における責任追及、交通法学会誌交通法研究第26号。
・拙稿、海上衝突予防法上の衝突のおそれに関する一考察、日本航海学会論文集第90号。
・拙稿、海域利用調整研究ノート（政策立案上の問題点）、海保大研究報告第37巻 2号。
・鈴木三郎・松本宏之・荒川治久、操船者の交通マナー意識に関する分析、日本航海学会学会誌第144号。

事　業　報　告

平成24年度第４回船積危険品研究委員会

１　日　　時　　平成24年7月10日(火)13:00～15:00

２　場　　所　　商船三井ビル　７階　会議室

３　出 席 者　　別紙のとおり

４　議　　題

（1）検討個品について

（2）その他

５　資　　料

席上配布

（1）検討個品資料　１　修正箇所　テプラロキシジム乳剤：酸化銅（Ｉ）

２　テプラロキシジム乳剤（３回目修正）

データ一覧

３　酸化銅（Ｉ）（１回目修正）

データ一覧

４　2412　テトラヒドロチオフェン

データ一覧

（2）その他

６　議　　事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

（1）検討個品資料　１　修正箇所　テプラロキシジム乳剤：酸化銅（Ｉ）については、修正箇所を確認して終了した。

２　テプラロキシジム乳剤はホームページに掲載済み。

３　テトラヒドロチオフェンについては、次回２回目修正することとなった。

以　上

別　紙

出　席　者　名　簿

（順不同・敬称略）　　は欠席者

※海防研常任委員

委員長	廣井正男	元神戸商船大学教授※
委員	三村治夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
〃	児玉正浩	キソー化学工業(株)代表取締役社長※
〃	黒田富治	日本郵船㈱関西支店支店長代理※
〃	北田正昭	(株)商船三井関西支店副支店長※
		(代　白方　馨　海務監督)
〃	慶松美雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※
		(代　藤原　外喜夫　安全管理部長)
〃	山根健次	(独)海上技術安全研究所大阪支所副支所長
関係官庁	土谷　穣	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
〃	中西弘一	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長
〃	椎名健一	第五管区海上保安本部交通部安全課長
		(代　空野　哲平　海務第二係員)
〃	三宅光成	大阪海上保安監部航行安全課長
〃	浅野光行	神戸海上保安部航行安全課長
		(代　池宮　崇　第一海務係員)
事務局	山本幸典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
〃	藤原　昇	〃　事業部長補佐
〃	竹田和子	〃　事業部員

平成２４年度　大阪湾における交通流交差海域等の安全確保に関する調査研究　第１回委員会

１　日　　時　　平成24年8月8日(水)　13:30～15:40

２　場　　所　　神戸ポートタワーホテル　5F　パールの間

３　出 席 者　　別紙のとおり

４　議　　題

（1）平成２３年度の課題への対応（報告）について

（2）調査方針について

（3）ヒアリング実施方案（案）

（ヒアリング調査の参考資料）

（4）その他

５　資　　料

（1）検討資料委１－１　調査方針（案）

（2）検討資料委１－２　ヒアリング実施方案（案）

（3）委１－２　付属資料　交通流交差海域及び運航上の注意海域等

参考資料

・平成２３年度の課題への対応（報告）

６　議　　事

事務局より出席者、資料の確認の後、世良専務理事の挨拶の後、委員長の選任が行われた。

神戸大学名誉教授　井上　欣三委員が委員長に選任された。引き続き　井上　欣三委員長により議事がすすめられた。

７　審 議 結 果

提示された検討資料は、一部文言の修正及び検討部会で、出た意見を盛り込むことを前提に承認された。

以　上

別　紙

出　席　者　名　簿

（順不同・敬称略）　　は欠席者

※海防研常任委員

委員長	井上欣三	神戸大学名誉教授
委員	岩瀬　潔	海技大学校教授※
〃	世良　亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
〃	村田勝久	内海水先区水先人会会長※
〃	竹口信和	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	今西邦彦	(社)日本船長協会技術顧問※
〃	黒田富治	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
	(迫田孝広)	
〃	北田正昭	(株)商船三井関西支店副支店長※
〃	松島　豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
〃	田渕訓生	全国内航タンカー海運組合関西支部長
		(代　永石　大機　事務局長)
〃	白野哲也	大阪フェリー協会専務理事
関係官公庁	森部賢治	第五管区海上保安本部交通部長
		(代　三宅　真二　交通部企調官)
		(同席　清水　景平　安全課第一海務係専門員)
〃	川名一徳	大阪海上保安監部長
		(代　會所　司　航行安全課専門官)
〃	中村　清	神戸海上保安部長
		(代　加藤　一也　航行安全課専門官)
〃	谷延京一	和歌山海上保安部長
		(代　戸川　義徳　交通課安全係長)
〃	松葉佐謙一郎	大阪湾海上交通センター所長
		(代　吉田　淳一　運用管制課長)
〃	田中　暁	近畿運輸局海上安全環境部長
		(同席　土佐　弘　主席運航労務監理官)
〃	堀尾保之	水産庁瀬戸内海漁業調整事務所長
		(代　束原　茂　調整課長)
〃	豊田　巖	神戸市みなと総局担当局長
		(代　辻　隆弘　振興部海務課)
		(同席　旭　隆朗　海務係)

事務局	世良邦夫	(公社)神戸海難防止研究会	専務理事
〃	山本幸典	〃	常務理事
〃	竹村太志	〃	主任研究員
〃	塔本吉夫	〃	事業部長補佐
〃	竹田和子	〃	事業部員
〃	野間卓志	(株)日本海洋科学関西支社	課長代理

A社着離桟に係る航行安全対策調査第１回委員会

１　日　　時　　平成24年9月3日(月)　13:30～16:55

２　場　　所　　パレス神戸　2F　大会議室

３　出 席 者　　別紙のとおり

４　議　　題

（1）調査方針について

（2）A社桟橋及び着離桟状況概要について（パワーポイントによる説明）

（3）ＬＮＧ船の船型、操船性能等について

（4）桟橋付近海域の航行環境について

（5）ファストタイムシミュレーション（ＦＴＳ）実施方案について

５　資　　料

（1）検討資料委１－１　調査方針（案）

（2）検討資料委１－２　ＬＮＧ船の船型、操船性能等（案）

（3）検討資料委１－３　桟橋付近海域の航行環境（案）

（4）検討資料委１－４　ファストタイムシミュレーション（ＦＴＳ）実施方案

席上配布資料

（1）検討資料委１－１　１頁　差替え

６　議　　事

事務局より出席者、資料の確認の後、委員長の選任が行われ、海技大学校教授淺木　健司委員が委員長に選任された。委託者挨拶の後、淺木　健司委員長により議事がすすめられた。

７　審 議 結 果

提示された検討資料は、一部文言の修正及び検討部会で、出た意見を盛り込むことを前提に承認された。

以　上

別　紙

出　席　者　名　簿

（順不同・敬称略）　　は欠席者

※海防研常任委員

委員長	淺木健司	海技大学校教授※
委員	世良亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
〃	田中隆博	海上保安大学校准教授
〃	竹口信和	大阪湾水先区水先人会会長※
		（同席　片岡　徹　副会長）
〃	今西邦彦	（一社）日本船長協会技術顧問※
〃	迫田孝広	日本郵船（株）関西支店長代理※
〃	北田正昭	（株）商船三井関西支店副支店長※
〃	松島豊	川崎汽船（株）関西支店副支店長※
〃	池野誓男	（社）大阪府タグ事業協会会長
		（同席　植村　博　専務理事）
〃	松田和男	堺泉北船舶安全協議会会長
関係官公庁	森部賢治	第五管区海上保安本部交通部長
		（同席　北野隆志　安全課海務第二係長）
〃	川名一徳	大阪海上保安監部長（代　三宅　光成　航行安全課長）
		（同席　下須　弘文　第一海務係長）
〃	安尾博志	堺海上保安署長
		（同席　山沖　学　港務係長）
〃	井上博睦	大阪府港湾局長
		（代　山谷　武　計画調整課計画グループ主査）
委託者	A社	
事務局	福間和之	（公社）神戸海難防止研究会会長
〃	山本幸典	〃　常務理事
〃	竹村太志	〃　主任研究員
〃	塔本吉夫	〃　事業部長補佐
〃	竹田和子	〃　事業部員
〃	植山通朗	（株）日本海洋科学顧問
〃	伊豫谷一成	〃　取締役九州支店長
〃	野間卓志	〃　関西支社課長代理
〃	上妻清剛	〃　九州支店研究員

平成24年度第５回船積危険品研究委員会

１　日　　時　　平成24年9月11日(火)13:00～15:00

２　場　　所　　商船三井ビル　７階　会議室

３　出 席 者　　別紙のとおり

４　議　　題

（1）検討個品について

（2）その他

５　資　　料

席上配布

（1）検討個品資料　１　修正箇所　酸化銅（Ⅰ）テトラヒドロチオフェン

２　2412　テトラヒドロチオフェン（１回目修正）

データ一覧

（2）その他　　IMDG Coda Amendment 36-12overview of changes from Amendment35-10

「IMDGコード改正　35-10から36-12への改正」

６　議　　事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

（1）検討個品資料　１　修正箇所　テプラロキシジム乳剤：酸化銅（Ⅰ）については、再度確認して終了した。

２　テトラヒドロチオフェン(１回目修正)については確認後、終了した。

ホームページに掲載することで了承された。（別紙）

（2）その他　　IMDGコード改正について、委員長より説明された。

以　上

別　紙

出　席　者　名　簿

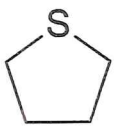
（順不同・敬称略）　　は欠席者

※海防研常任委員

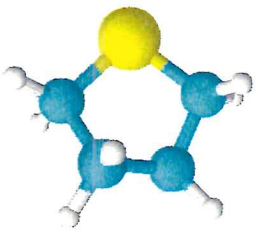
委員長	廣井正男	元神戸商船大学教授※
委員	三村治夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
〃	児玉正浩	キソー化学工業(株)代表取締役社長※
〃	迫田孝広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	北田正昭	(株)商船三井関西支店副支店長※
		(代　白方　馨　海務監督)
〃	慶松美雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※
		(代　藤原　外喜夫　安全管理部長)
〃	山根健次	(独)海上技術安全研究所大阪支所副支所長
関係官庁	土谷　穣	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
〃	中西弘一	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長
〃	椎名健一	第五管区海上保安本部交通部安全課長
		(代　空野　哲平　海務第二係員)
〃	三宅光成	大阪海上保安監部航行安全課長
〃	浅野光行	神戸海上保安部航行安全課長
		(代　日當　大作　第一海務専門員)
事務局	山本幸典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
〃	藤原　昇	〃　事業部長補佐
〃	竹田和子	〃　事業部員

国連番号
2412

テトラヒドロチオフェン



TETRAHYDROTHIOPHENE



物質の特定

ＣＡＳ番号：110-01-0

化学式：C_4H_8S;

別名（商品名）：Tetramethylenesulfide; Thiacyclopentane; Thiocylopentane; Thilane; Thiolane; Thiophane; THT; THTP
テトラメチレンサルファイド; テトラメチレンスルフィド; チアシクロペンタン; チオシロペンタン; チラン; チオラン; チオファン

化学的分類：環状チオエーテル

規則名・法規等

[規則名] TETRAHYDOROTHIOPHENE
テトラヒドロチオフェン

危険規則

分類・等級等: 引火性液体類　3　　Ⅱ
副次危険性等級: －
積載場所：甲板上，甲板下
コンテナ収納検査：要　　積付検査：否

IMDG-CODE

分類・等級等: Class 3　　Ⅱ
副次危険性等級: －
積載場所：On deck, Under deck

CFR 172. 101

分類・等級等: 3　　Ⅱ
ラベルコード：3
積載場所：On deck, Under deck

港　則　法：引火性液体類

荷役許容量：A / 5　　B / 100　　C1 / 500　　C2 / 2000

海　防　法：-

消　防　法：第４類 第１石油類（非水溶性）

船積上の注意事項

荷　姿　危一規則規定によるものであること。

イ．居住区域から離れた場所に積載すること。
ロ．その他引火性液体類についての一般的注意事項に従うこと。

物理／化学的性質

外　観　等：無色～淡黄色液体
**臭　　**：強い悪臭（注）
比重又は嵩比重：0.998～1.005（20/4℃）
蒸気比重：3.1
融　点（℃）：-96
沸　点（℃）：115～124
溶　解　性：
水：不
アルコール：易
エーテル：易

（注）臭気閾値（臭いを感知できる最低濃度）：1ppb

用　途

溶媒，有機合成中間体，燃料ガス付臭剤，成長抑制剤，殺虫剤の添加剤

化学的危険性

腐　食　性：
　人：なし
　金　属：なし
　木　材：なし

酸　化　性：なし

水／空気／熱の作用：熱分解や燃焼すると有毒なSO_xを含む煙霧を発生する。

可　燃　性：あり

引火点（℃）：12

発火点（℃）：200

爆発限界（%）：1.1～12.3

特記事項：

EmS	F-E, S-D

消　火　剤：水噴霧（棒状注水無効），泡，炭酸ガス，粉末

検　知　法：テトラヒドロチオフェン検知管。可燃性ガス測定器，臭いによる。

人体への影響

作業環境の許容濃度（TLV）	TWA	STEL	C（上限値）	経皮吸収	発がん性

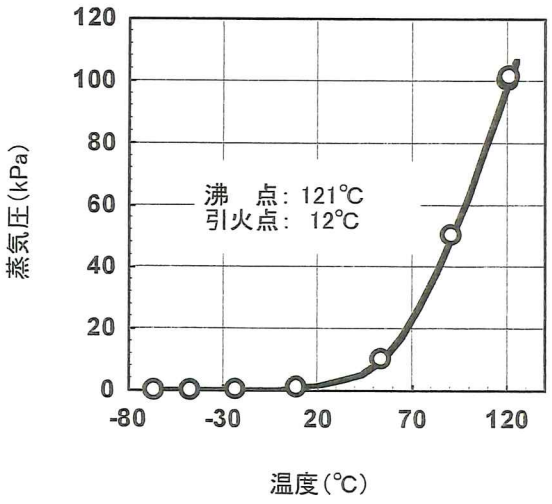
毒　　性：LD_{50} 1750mg/kg（経口ラット）

蒸気，粉塵などを吸入した場合	気道を刺激し，胸部に灼熱感を起こす。肺水腫を起こす場合がある。頭痛，動悸，めまい，吐き気，不快感を生じる。
飲み込んだ場合	胃腸を刺激し，吐き気，おう吐，下痢を起こす。
皮膚に付着した場合	刺激する。皮膚からも吸収され，手，足にチアノーゼを生じるおそれがある。
眼に入った場合	強く刺激し，結膜炎を起こす。

MFAG	-

救　急　処　置

蒸気，粉塵などを吸入した場合	直ちに新鮮な空気の場所に移し，保温安静に努め，医師の手当を受ける。要すれば，酸素吸入，人工呼吸を行う。
飲み込んだ場合	活性炭20gを水300mlとともに与えた後，30gの硫酸マグネシウムを水に溶かして飲ませ，医師の手当を受ける。意識がない場合やけいれんを起こしている場合は口から何も与えないこと。無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合	石けんと多量の水で十分に洗う。刺激が続くときは医師の手当を受ける。
眼に入った場合	流水で十分に洗った後，医師の手当を受ける。
漏洩した場合	火気厳禁とし，通風換気を十分に行い，保護具着用の上，破損箇所をシールし，不活性吸着材（バーミキュライト，砂又は土など）をまいて掃き取った後，大量の水で洗う。
保護具	有機ガス用防毒マスク又は自給式呼吸具，保護衣，保護メガネ，保護手袋，ゴム長靴



テトラヒドロチオフェンの蒸気圧曲線

平成２４年度津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策調査
第１回委員会

１　日　　時　　平成24年9月13日(木)　13:30～16:15

２　場　　所　　神戸ポートタワーホテル　５F　パールの間

３　出 席 者　　別紙のとおり

４　議　　題

(1) 調査方針について

(2) 津波来襲時における船舶港外避難の想定（案）について

(3) 海上交通流シミュレーション実施方案（案）について

(4) その他

５　資　　料

(1) 検討資料委１－１　調査方針（案）

(2) 検討資料委１－２　津波来襲時における船舶港外避難の想定（案）

(3) 検討資料委１－３　海上交通流シミュレーション実施方案（案）

席上配布資料

(1) 席上配布資料１　Ｌ２換算アウトプットイメージ

(2) 席上配布資料２　南海トラフの巨大地震モデル検討会第二次報告書（抜粋）
(2012年８月29日発表）－中央防災会議（内閣府）－

６　議　　事

事務局より出席者、資料の確認の後、世良専務理事の挨拶の後、委員長の選任が行われた。

大島商船高等専門学校長　久保　雅義委員が委員長に選任された。引き続き　久保雅義委員長により議事がすすめられた。

７　審 議 結 果

提示された検討資料は、一部文言の修正及び検討部会で、出た意見を盛り込むことを前提に承認された。

以　上

別　紙

出　席　者　名　簿

（順不同・敬称略）　　は欠席者

※海防研常任委員

委員長	久保雅義	大島商船高等専門学校長（※神戸大学名誉教授）
委員	小林英一	神戸大学大学院海事科学研究科教授
〃	松本宏之	海上保安大学校教授
〃	堀　晶彦	海技大学校教授※
〃	片岡　徹	大阪湾水先区水先人会副会長※
〃	今西邦彦	（一社）日本船長協会技術顧問※
〃	迫田孝広	日本郵船（株）関西支店支店長代理※
〃	北田正昭	（株）商船三井関西支店副支店長※
〃	松島　豊	川崎汽船（株）関西支店副支店長※
関係官公庁	佐々木幸男	第五管区海上保安本部警備救難部長
		（代　井本　拓也　第一災害対策係長）
〃	廣瀬洋介	第五管区海上保安本部海洋情報部長
〃	森部賢治	第五管区海上保安本部交通部長
		（同席　片山　敬義　安全課専門官）
〃	川名一徳	大阪海上保安監部長
		（代　會所　司　航行安全課専門官）
〃	中村　清	神戸海上保安部長
		（代　加藤　一也　航行安全課専門官）
〃	田中　暁	近畿運輸局海上安全環境部長
		（同席　岩野　正義　船員労働環境・海技資格課）
〃	仲田光男	神戸運輸監理部海上安全環境部長
〃	菊地身智雄	近畿地方整備局港湾空港部長
		（代　中平　浩之　港湾空港整備補償課課長補佐）
〃	井上博睦	大阪府港湾局長
〃	丸岡宏次	大阪市港湾局長（代　松岡　正幸　海務担当課長代理）
		（同席　黒田　剛　計画整備部海務担当係長）
〃	田中　稔	兵庫県県土整備部土木局長
		（代　一瀬　友啓　課長補佐兼計画係主任）
〃	岡口憲義	神戸市みなと総局長
		（代　辻　隆弘　振興部海務課港務係長）
		（同席　旭　隆朗　振興部海務課港務係）

事務局	世良邦夫	(公社)神戸海難防止研究会	専務理事
〃	山本幸典	〃	常務理事
〃	塔本吉夫	〃	事業部長補佐
〃	藤原昇	〃	事業部長補佐
〃	竹田和子	〃	事業部員
〃	國安政幸	(株)エム・オー・エル・マリンコンサルティング	関西事務所長
〃	生田陽一	〃	上級研究員

平成２４年度全国海難防止強調運動の実施結果について（報告）

近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議
事務局（公社）神戸海難防止研究会

平成２４年度全国海難防止強調運動は、７月１６日から３１日まで（１６日間）実施された。

当地方においては、平成２４年６月２１日（木）近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議を開催し、承認された実施計画に基づき運動を推進、展開した。

各関係団体等から事務局に報告のあった実施概要は、次のとおりである。

なお、事務局においては、中央作成のポスター、リーフレットを配布し、運動啓蒙用品グッズとして「ウエットティッシュ」８，０００個を作成して関係団体等に配布した。

各関係団体等の実施内容

（順不同・敬称略）

団　体　名	実　施　概　要
近畿地方整備局	広報活動 1. 舞鶴港湾、大阪港湾・空港、和歌山港湾、神戸港湾各事務所においてポスターの掲示 2. 啓蒙用品のウェットティッシュを請負業者から関係する船舶に配布 3. 舞鶴港湾事務所において、海難防止強調運動実施中ののぼりを掲示（末尾写真添付）
四国地方整備局	平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、事務局より送付のあったポスターを掲示した。
近畿運輸局	期間中における重点事項「見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進」について訪船指導を実施、乗組員に周知徹底するよう啓蒙した。 〈海上安全環境部関係部署〉 ７月２２日貝塚市二色の浜海浜緑地 ７月２８日京都府久美浜海水浴場 ７月２９日和歌山市片男波、浜の宮海水浴場 小型船舶操縦者遵守事項安全パトロールを実施 事故防止及びライフジャケット着用等を一般利用者等に指導・啓発した。

神戸運輸監理部	〈安全運航講習会〉 ７月２６日（木）１４：００～１６：００ 神戸第二地方合同庁舎会議室 第１部講演 講師：第五管区海上保安本部交通課専門官　谷岡　敦　氏 演題：「海難防止について」 第２部講演 講師：神戸大学大学院海事科学研究科教授　古荘　雅生　氏 演題：「見張りの盲点・安全運航の落とし穴」 参加者：船舶乗組員、運航管理者等　９４名 （末尾写真添付）
神戸海洋気象台	平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、事務局より送付のあったポスターを当台内に掲示した。 （末尾写真添付）
神戸地方 海難審判所	平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、事務局より送付のあったポスター及び「海難ゼロ旗」を事務所内に掲示した。 また、海難防止運動啓蒙グッズ「ウエットティッシュ」を配布した。
運輸安全委員会事務局神戸事務所	「海難０（ゼロ）旗」の掲揚 海難防止ポスターの掲示 周知啓発用グッズ（ウェットティシュ）の配布
瀬戸内海漁業調整事務所	本運動期間中、管轄海域（瀬戸内海全域。紀伊水道）において、漁業取締船「白鷺」及び「みかげ」に搭載の電光表示装置を用いて「海難防止強調運動実施中」、「ライフジャケットを着用しましょう」のテロップを流し、操業中の漁船に対し広報活動を行った。また、７月１６日神戸港祭り（ボート天国）において「白鷺」の一般公開に際し、ポスターの掲示等による広報活動を実施した。（末尾写真添付）
（一社）日本船長協会神戸支部	平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、事務局より送付のあったポスターを事務所内に掲示した。（末尾写真添付）

（社）関西小型船安全協会	本運動期間中、広報活動として、神戸大学練習船「深江丸」にて小学生等を対象に体験航海を実施し、海事思想の普及、海上安全についての実習を行った。また、高知県（高知市、宿毛市、土佐清水市）和歌山県（和歌山市、田辺市）の各地でマリーナ等に所属するプレジャーボートなどの小型船を対象に救命胴衣の着用推進活動を行った。 （末尾写真添付）
内海水先区水先人会	本運動期間中、平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき水先艇に「海難ゼロ旗」を掲揚するとともに「全国海難防止強調運動実施中」の横断幕を事務所前道路陸橋（許可済）に掲示 また、安全標語「慣れた航路　油断予断に落とし穴」を各事務所に掲げ海難防止啓発活動を実施した。
大阪湾水先区水先人会	平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、事務局より送付のあったポスターを事務所内に掲示した。
近畿旅客船協会	平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、事務局より送付のあったポスターを事務所内に掲示した。
神戸旅客船協会	平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、事務局より送付のあったポスターを事務所内に掲示し、さらに配布のあったポスター、リーフレットをコピーし、各事務所、旅客船に配布した。 また、「海難０旗」を旅客船に掲揚し啓蒙活動を行った。 （末尾写真添付）
四国旅客船協会	平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、事務局より送付のあった通知文書、パンフレット等を関係会員にFAX等で周知し同じく、配布された海難防止運動啓蒙グッズ「ウエットティシュ」を配布した。
日本押船土運船協会（所属する企業）	平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、次のとおり本運動を展開、啓発活動を実施した。 ・日本押船土運船協会 平成２４年度　海難防止講習会 場所　神戸まちづくり会館　２階ホール 日時　平成２４年７月２４日（火）1000～1200 出席者　　３６名（所属する各企業）

	講習会 １．航行係留安全委員会　委員長挨拶 秋田　哲 ２．日本押船土運船協会　会長挨拶　山崎　正一 ３．講習会 (1)　演題「海難防止について」 講師　第五管区海上保安本部　交通部安全課 海務第一係長　　川端　成記　氏 (2)　演題「防災気象情報の取得と活用」 講師　神戸海洋気象台　海上気象課 港湾気象官　　村上　正廣　氏 （末尾写真添付）
全日本会員組合 中国・四国地方本部	本運動期間中、平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、広島港、竹原港にて定期旅客船を訪船し、広報活動を実施、また 徳山港においても内航船を訪船し、広報活動を実施するなど、本運動にかかる広報活動を実施した。
第五管区海上保安本部	平成２４年度全国海難防止強調運動実施計画に基づき、次のとおり本運動を展開、啓発活動を実施した。 〈重点事項〉 ①「見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進」 〈推進項目〉 イ　常時適切な見張りの徹底 ロ　船舶間コミュニケーションの促進 ・早めに相手船にわかりやすい動作をとる ・VHF や汽笛信号等を活用する ・AIS 情報の活用と正しい情報の入力 ②「小型船舶の安全対策の徹底」 〈推進項目〉 イ　発航前点検の徹底　〔プレジャーボート〕 ロ　航行中のみならず操業・作業中も含めた見張りの徹底 〔漁船・遊漁船共通〕 ハ　気象・海象情報の入手　〔プレジャーボート・漁船・遊漁船共通〕 ニ　ライフジャケット着用等自己救命策の確保 〔プレジャーボート・漁船・遊漁船共通〕

	ホ　季節・交通環境の変化を予測した計画的指導啓発（稼働開始時期、台風来襲時期、漁業養殖施設設置時期等、休日） 〔プレジャーボート〕	
各地区推進母体 （兵庫県阪神淡路地区）	機関名	活　動　内　容
	（財）海上保安協会神戸支部	（１）広報活動 ①所属曳船のマストに「海難０旗」を掲揚した。 ②所属作業船等大型船に、日本押船土運船協会配付の「横断幕」を掲示した。 ③事務所、船舶に、ポスターを掲示し、リーフレットを配付した。 （２）各種行事 なし （３）安全に関する指導・教育・訓練 ①安全に関する指導 作業船　１隻　　その他　２隻 ②教育 ⅰ　日本海事センターによる海事フォーラムへの参加（５名） ⅱ　日本押船土運船協会による海難防止講習会への参加（６名） ⅲ　神戸運輸監理部による安全運航講習会への参加（４名） （４）安全教育関係 海難防止講習会　１回　６８人 ※本社社員、船舶職員６８名が参加し、「船舶会議」を開催、社内講師による海難防止講習会を実施した。
	兵庫県漁業協同組合連合会	（１）広報活動 県内漁協系統団体機関紙「拓水」７月号に広報記事を掲載し、県内漁協組合員をはじめ関係者に対し、当該運動の重要性と海難防止を強く訴えた。 また、ポスターを関係各所に掲示し、当該運動の重要性を広く普及した。 （２）各種行事 なし

		（３）安全に関する指導・教育・訓練 なし （４）安全教育関係 海上安全教室　２回　１１１人
	兵庫県港運協会	（１）広報活動 ①事務所内へのポスター掲示 ②傘下、はしけ事業組合へのリーフレット、啓発用グッズの配付
	兵庫海運組合	（１）広報活動 ①事務所内へのポスター掲示 ②来訪者への周知
	兵庫県水難救済会	（１）広報活動 ①県庁内掲示スペースにポスターを掲示した。 ②ラジオ放送による周知 ・ラジオ関西「防災マカセナサイ！」を活用し、「青い羽根募金活動のお知らせについて」のテーマの放送で、海難防止についても周知した。 （２）各種行事 なし （３）安全に関する指導・教育・訓練 なし （４）安全教育関係 海上安全教室　４回　３６９人 （若者の水難救済ボランティア教室の開催）
	神戸海事広報協会	（１）広報活動 事務所内掲示板にポスターを掲示した。
	（一社）神戸港振興協会	（１）広報活動 ①神戸ポートタワー塔頂への「海難０旗」の掲揚 ②神戸海洋博物館、神戸ポートタワー、中突堤中央ターミナル２Ｆへポスターを掲示 ・神戸ポートタワーへの大判「海難０旗」の掲揚

		・神戸海洋博物館展示ブースへのポスター掲示
	神戸旅客船協会	別掲
	日本沖荷役安全協会神戸支部	（１）広報活動 ①会員（船社７４社を含む会員１７９社）に向け四半期ごとに発行している「安全情報誌」にリーフレットを掲載した。 ②安全管理部長が行う沖荷役現場点検時、内航ケミカルタンカー船に対してリーフレットを配布し、周知活動を行った。
	神戸地区石油コンビナート等安全推進協議会（ＫＴ会幹事：昭和産業㈱神戸工場）	（１）広報活動 事務所内玄関にポスターを掲示した。
	（社）関西小型船安全協会兵庫東部支部	（１）広報活動 ①７月１日から事務局正面の壁面に海の月間のポスターを期間中掲示した。 （２）各種行事 「海と船の体験教室」：海事思想普及活動 ７月２７日（金）の午後、神戸市東灘区深江から神戸大学海事科学部練習船「深江丸」で当協会主催の「海と船の体験教室」を開催大人３０名、小人１４名の市民が神戸港沖を航海し海事思想の普及、海上安全についての実習を行いました。 （３）安全に関する指導・教育・訓練 ①安全に関する指導

		プレジャーボート 31 隻 企業等訪問件数 １３件 ⅰ ７月２１日（土）の07:00 から08:00 の間、高知県・宿毛湾で当協会会員の安全指導員「有田正樹氏」「杉本克彦氏」「松本茂氏」が宿毛海上保安署担当官と共に杉本氏所有の安全パトロール艇「漁友丸」で、救命胴衣の着用を重点的に海上安全パトロールを実施した。 ⅱ ７月２９日（日）午前、和歌山市の片男波海水浴場、浜の宮海水浴場で水上オートバイを対象に近畿運輸局、和歌山海上保安部、ＰＷ（水上オートバイ）安全協会と共同で約３０隻のＰＷに救命胴衣の着用、秩序ある海面利用などを主眼に水上オートバイに特化した安全推進活動を実施した。 ⅲ ７月２５日（水）、高知市及びその周辺のマリーナ、マリンショップ合わせて９か所を高知保安部担当官とともに巡回、救命胴衣の着用、防水通信装置の携帯、津波災害への対応など、安全対策の徹底を要請した。 ⅳ ７月２８日（土）の午前、和歌山県・田辺海上保安部と共同で周辺マリーナ４か所を巡回、救命胴衣の着用の推進など、プレジャーボートの安全推進活動を実施した。 ②教育 ⅰ ７月１９日（木）午前、高知県・土佐清水海上保安署で海上安全指導員と海上保安協力員が合同で海上安全活動の実施についての打合せを行った。 （４）安全教育関係 海上安全教室 １回 ８９人 ・７月３１日（火）午前、和歌山市和歌山マリーナで関空航空基地隊員と共同で落水者救助デモ、ＡＩＤ装置の実習を行った。この行事には福島県から招かれた小学校５年生が６９名、またＡＩＤ実習にはマリーナ関係者約２０名が参加し、各人に１体のダミーが用意され心臓マッサージの訓練を行った。
	近畿地方整備局神戸港湾事務所	（１）広報活動 ① 全国海難防止強調運動用ポスターを、事務所内受付カウンター周辺の目に付きやすい場所へ掲示した。 ② 海難防止啓発グッズ「ウェットティッシュ」を船舶によ

		る港内視察者等へ配布した。
	兵庫県阪神南県民局 尼崎港管理事務所	（１）広報活動 事務所玄関に、ポスター、啓発用ウェットティシュを配置した。
	兵庫県淡路県民局洲本土木事務所	（１）広報活動 ① 事務所入口にポスターを掲示した。 ② 啓発用ウェットティシュは、海岸パトロールする職員に配付し、２４年度海難防止強調運動主旨啓発に活用した。 （２）各種行事 なし （３）安全に関する指導・教育・訓練 企業等訪問件数 １件 ・洲本市にある新たなプレジャーボート提供事業者に対し、ライフジャケット着用推進、安全運航指導を行った。
	神戸市みなと総局	（１）広報活動 海難防止啓発ポスターを、神戸市役所1 号館20F 神戸市みなと総局海務課、海務課業務センター（PI）、海務課けい船係（摩耶ふ頭）の掲示し、広報を行った。
	神戸海上保安部	（１）広報活動 ①庁舎内に全国海難防止強調運動のぼりを設置、啓発ポスターを掲示した。また、庁舎外壁、神戸メリケンパークオリエンタルホテル外壁に横断幕を掲示した。 ②航行安全課窓口において周知活動を行った。 ③企業を訪問し、啓発ポスター掲示による周知活動を行った。 ・窓口での周知活動 ・巡視艇による広報活動 （２）各種行事 ①巡視船艇体験航海・一般公開 神戸港ボート天国を実施し、神戸保安部ブースによる啓

		発、周知活動、巡視船「せっつ」の一般公開、巡視艇「うらなみ」体験航海を実施した。 ②一日海上保安部署長・港長・船長等 神戸港ボート天国を実施し、一日海上保安部長、一日海上保安官による啓発、広報活動を行った。 ③ボート天国 神戸港ボート天国を実施し、一日海上保安部長、一日海上保安官を任命し、啓発、広報活動を行った。神戸保安部ブースによる啓発、周知活動、巡視船「せっつ」の一般公開、巡視艇「うらなみ」体験航海を実施した。また、ヘリコプターによる吊り上げ救助訓練展示、海上保安庁キャラクター「うみまる」による広報活動を実施した。 （3）安全に関する指導・教育・訓練 漁船　３１隻　　プレジャーボート　６４隻 貨物船　９隻　木材運搬船（再掲） タンカー　２隻　　旅客船　３隻 作業船　４隻　　その他　９隻 企業等訪問件数　１１件
	西宮海上保安署	（1）広報活動 ①啓発ポスターを掲示した。 ②航行安全課窓口において周知活動を行った。 ③管内マリーナ及び企業を訪問し、啓発ポスター掲示による周知活動を行った。 （2）各種行事 なし （3）安全に関する指導・教育・訓練 プレジャーボート　３８隻 （4）安全教育関係 海上安全教室　1回　１４０人 プレジャーボート（水上オートバイ）への安全指導

各地区推進母体 （播磨地区）	1　実施結果 （1）　各種行事の実施関係 ① 一日海上保安官　実施回数　1回　参加人員２４名 ② 体験航海　実施回数　1回　参加人員３２名 ③ 合同パトロール　実施回数　1回　参加人員１１名 （2）　安全指導関係 訪船指導隻数　１２９隻 （3）　安全教室関係 ① 海上安全教室　実施回数　5回　参加人員３４９名 ② 難防止講習会　実施回数　1回　参加人員　5名 （4）　その他 ① 地元ラジオ局出演　実施回数　1回　参加人員　4名 ② 旅客船安全点検　実施回数　2回　参加人員　４８名 ③ 険物バース点検　実施回数　1回　参加人員　3名 （末尾写真添付）
各地区推進母体 （和歌山北部地区）	(1)　広報活動 構成員による、各事務所等へのポスター、看板、海難ゼロ旗（近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議配布）、懸垂幕の掲示、企業の会報による周知。公益財団法人和歌山県水上安全協会による、警察、関係団体・機関との海水浴場等における啓発活動。和歌山海上保安部による、構成員以外の漁協、マリーナ、釣具店等に対するポスター掲示、リーフレット・グッズ配布等協力依頼。 (2)　各種行事 一日海上保安官（地元ライオンズクラブ職員）、和歌山海上保安部、地元ライオンズクラブ等による、和歌山県立近代美術館前の徳川吉宗公銅像前におけるライフジャケット着用推進キャンペーン。巡視艇きいかぜによる、福島県郡山市の小学生を対象とした体験航海。 (3)　安全に関する指導・教育・訓練 ①　安全指導 イ　訪問指導 （イ）　和歌山市（水産課）、船舶荷役関係会社、船舶代理店、マリーナ関係者、漁業協同組合による、傘下関係船舶に対する訪船指導 （ロ）　和歌山海上保安部による、プレジャーボートに対する訪船指導

	ロ　企業訪問 和歌山海上保安部による、海運関係企業、マリーナ、漁業協同組合の訪問 ②　安全教育 イ　安全研修会等 関係行政機関における、関係者に対するライフジャケット着用研修・救命救急講習会、船舶荷役関係会社における荷役関係者に対するライフジャケット着用研修・救命講習・安全研修、マリーナにおける、プレジャーボート運航者及び職員に対する安全研修 ロ　海上安全教室 関係行政機関における、水難防止教室、心肺蘇生講習会 和歌山海上保安部及び海南海上保安署による、小学校児童・教員・父兄に対する水難事故救済に係る海上安全教室 ③　訓練 和歌山海上保安部、関西空港海上保安航空基地、マリーナ、プレジャーボート運航者、海上安全指導員、（社）関西小型船安全協会によるライフジャケット着用入水体験訓練、プレジャーボート海中転落者救助訓練
各地区推進母体 （徳島地区）	○　広報活動及び各種行事 （1）　一日海上保安部長任命 平成２４年７月１６日、小松島港まつりに併せ、一日海上保安部長を任命し、海上保安業務を一般市民に広く知らしめた。 （2）　一日海上保安官による海難防止啓発活動（牟岐署との合同パトロール） 美波町の親善大使である乙姫大使を一日海上保安官に任命し、牟岐警察署と合同で海難防止啓発活動を実施した。 活動内容は、うみがめマリンクルーズの所属船の船長や牟岐大島の渡船等に対し、リーフレット等を配布し、海難防止を呼びかけた。 本活動は、四国放送、徳島新聞及び読売新聞に取り上げられ、活動趣旨が幅広く周知されたものと思料する。 （3）　自己救命策確保教室 地元の日和佐小学校及び管内集客施設のマリンジャムにおいて、自己救命策確保教室を実施した。 日和佐小学校の６年生３４名及び海中観光船ブルーマリン乗客

	等約５０名に対し、ライフジャケットの必要性やペットボトル等による海中転落時の救助方法等について、実演を交えながら講習した。 （４）　地元広報誌への掲載を実施 全国海難防止強調運動の実施に関し、地元の美波町及び海陽町の広報誌に掲載依頼し、幅広く周知活動を実施した。 （５）　海上安全指導員との合同パトロール 平成２４年７月２８日（土）０９００から１０３０の間、徳島小松島沖合いにおいて海上安全指導員　栗谷　正博氏と当部職員で合同パトロールを実施。周知活動として、リーフレット及び携帯電話防水パック、ティッシュを配布し、同運動に対し協力を要請した。 ○　安全教育関係 （６）　中学生に対する水難事故防止教室の開催 平成２４年７月１９日（木）１３２０から１４１０の間、阿南市立加茂谷中学校体育館において、同校全校生徒５１名に対し、水難事故防止教室を開催し、心肺蘇生法、ペットボトルによる救助法を実演した。 （７）安全運航に関する指導隻数等 漁船　１２隻 プレジャーボート　７２隻 企業訪問等　４６件 海上安全教室　３回　１３５人

近畿地方整備局　　＜ 幟（のぼり） の設置＞



神戸運輸監理部　　＜講習会実施風景＞



＜リーフレット掲示＞

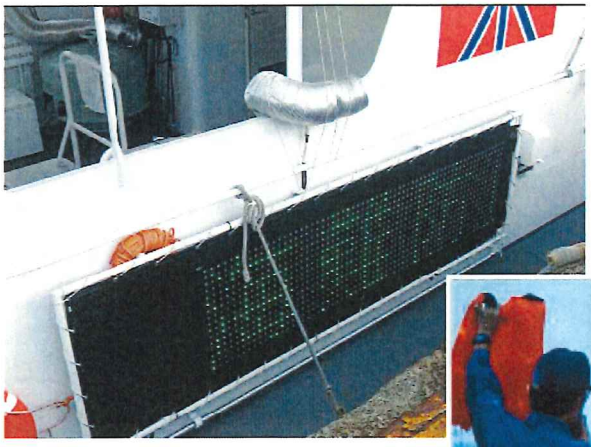
神戸旅客船協会



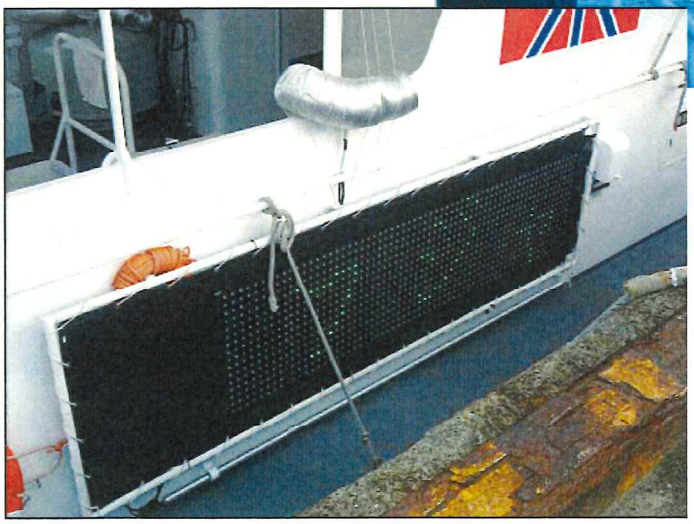
（一社）日本船長協会神戸支部



瀬戸内海漁業調整事務所　　＜ライフジャケット着用を呼び掛け＞







（社）関西小型船安全協会

＜体験教室＞



＜訪問活動＞



＜訪問活動＞



＜訪問活動＞



各地区推進母体（播磨地区）

＜ラジオ番組出演＞



＜安全教室＞



（一社）神戸港振興協会

＜ポートタワーに「海難０旗」の掲揚＞



＜ポートタワーの掲示スペースへのリーフレット掲示＞



メリケンパークオリエンタルホテル

＜横断幕の掲示＞



第五管区海上保安本部

【徳島】徳島部長FMびざん番組出演





日時：平成24年7月9日（月）1100～1200
場所：レインボースタジオ（徳島市）
内容：FMびざん（79．1MHz）の番組「B－STEP　TALKING」に4月18日に続き、再度徳島海上保安部長がゲストに迎えられ、「愛します！守ります！阿波の海！」と題して約1時間、7月16日からの「海難防止強調運動」をはじめ、7月1日から運用を開始した「海の緊急情報配信サービス」等々旬な話題を織り交ぜながら、パーソナリティーのドレミファ冒谷氏を相手に対話形式で番組に生出演し、海上保安庁の日々の業務を紹介しつつ、海での事故防止等について啓発した。
当日の様子は7月16日2200からも再放送予定であり、WEB上でも視聴が可能

田辺海上保安部職員によるFM放送への生出演（田辺）



扇ヶ浜に設置されている出張スタジオ


FMラジオ放送中の状況

日　時　：平成24年7月25日（水）1215～1223
実施職員：田辺海上保安部 交通課 2名
場　所　：田辺市扇ヶ浜に設置された
FMタナベの特設スタジオ『追スタ』
内　容　：田辺海上保安部職員2名が、FM放送局『FMタナベ』の出張スタジオである『追スタ』にゲスト出演した。
同スタジオは、田辺市 扇ヶ浜に設置されており、FM放送を海水浴場にもスピーカーにより放送しており、職員は海水浴中における注意点や海の安全情報メールの周知を行った。次回 8月3日も出演の予定。


扇ヶ浜の海水浴客

【五本部交通部　安全課】
公共交通機関を利用した海難防止の啓発活動



1　交通機関：　南海電気鉄道（通称：南海電車）の全区間における全車両
南海本線（難波～和歌山市）、南海高野線（難波～高野山）
2　啓発期間：　平成24年7月1日～7月31日
3　目　　的：　マリンレジャー愛好者が、多数利用する沿岸部の路線や都市部からマリンレジャースポットに至る路線を走る公共交通機関の車内等に、わかりやすくビジュアルなインパクトのある資料を掲示することにより、レジャー活動の直前に安全意識の高揚等を図り、事故防止につなげるもの。

大阪港ボート天国2012【大阪海上保安監部】
（全国海難防止強調運動の事前活動）



場　所：大阪大阪山会場等
参加勢力：大阪管区職員及び巡視船かつらぎ、
巡視船みおかぜ、こまかぜ
内　容：全国海難防止強調運動の事前活動として、
一日海上保安官任命式、海難防止キャンペーン
及び巡視船かつらぎ体験航海等を実施。



第28回神戸港ボート天国（神戸）



日時　平成24年7月16日（月）
場所　メリケンパーク・中突堤・かもめりあ
【イベント実施（参加）内容】
開会式（一日神戸海上保安部長及び海上保安官任命式）・海難防止啓発ブース展開・官庁船艇一斉パレード・海難救助展示訓練・巡視艇うらなみ体験航海・巡視船せっつにおいて一般公開及び海上保安業務功労者表彰式

姫路港ふれあいフェスティバル【姫路】
～一日海上保安官による海難防止活動～



日　時：平成24年7月16日（月）0945～1600
場　所：飾万津臨港公園（姫路市飾磨区）　来場者数：約7，000人
概　要：巡視艇のびき放水展示、一日海上保安官任命式（姫路お城の女王）及び海難防止啓発活動等

海中転落者救助等展示訓練、心肺蘇生法講習会（和歌山）





実施日時　平成２４年７月31日（火）　①1100～1140、②1300～1415
実施場所　①　和歌山マリーナシティヨットクラブ弓手浦、②　和歌山マリーナシティヨットクラブ　会議室
実施者　①　和歌山海保部：警備救難・交通機動隊・巡視艇乗組員・当該組織いわせ、関空保安部空港地：機動救難士3名、
（社）関西小型船舶安全協会、マリーナ関係者2名
②　和歌山海保部：陸上職員、【講師】関空保安航空基地：機動救難士3名
実施事項
①　プレジャーボート利用者・マリーナ関係者・海上安全指導員計10名、福島県船舶所有の小学6年生・5年生約100名に対して、プレジャーボート等中転落者救助展示訓練、ライフジャケット着用入水体験訓練、巻込まれ防止講習（関空保安航空基地機動救難士による救助方法紹介）を実施した。
②　プレジャーボート利用者・マリーナ関係者・海上安全指導員計20名に対して、CPR・AED等講習キット等を使用した心肺蘇生法講習を実施した。
【取材】：毎日新聞、産経新聞、和歌山新報

夏季多客期前フェリー安全点検【大阪監部】





日　時：平成24年7月5日 1000～1150
場　所：大阪南港フェリーターミナル F5岸壁
参加者：大阪海上保安監部 交通担当次長以下11名
（次長、警救課1名、交通課2名、航行安全課5名、こまかぜ2名）
近畿運輸局 海上安全環境部長他9名
内　容：夏季多客期を前に、旅客船の海難防止を図るため、近畿運輸局と合同で、「フェリーおおさか」の安全点検を実施するとともに、全国海難防止強調運動の重点事項について指導を行った。
（広報実施済み）

全国内航タンカー海運組合との合同パトロール・意見交換会 海難防止強調運動 啓発活動 実施 【姫路】



実施日：平成24年7月23日（月）合同パトロール：0900～1200、意見交換会：1290～1315
実施機関：全国内航タンカー海運組合、姫路海上保安部交通課、巡視艇めのだ
実施概要：内航タンカー2隻の荷役状況及び危険物専用岸壁の施設点検、浅田化学工業㈱・住友精化㈱・㈱エスケイにおいて、海難防止強調運動の啓発活動を実施
姫路港長と合同パトロール参加者が、パトロールの結果、港内津波対策などについて、意見交換を実施

【岸和田】自己救命策確保キャンペーン・船内見学



実施日時　平成24年7月16日　1000～1340
実施場所　いずみさの関空マリーナ周辺海域
対象者　泉佐野市在住の4～6年生（173名）
実施者　あやめめぐ　岸和田署2名
実施内容　自己救命策確保キャンペーン、あやめ船内見学

【加古川】若年齢層に対する自己救命策確保等海上安全教室



日　時　平成24年7月30日(月) 0950～1200
場　所　兵庫トヨタマリン(株)播磨マリーナ(主催者)
実施者　：警員及び巡視艇まやかぜ職員
対象者　：大塩小学校6年生(44名)及び保護者(6名) 計50名
講習内容：主催者からの依頼により、自己救命策確保(ペットボトル利用)、海浜事故防止に関する海上安全教室を実施したほか、救命胴衣試着実習、ロープワーク等を実施した。

【高知】海難防止指導



実施日：平成24年7月18日(水) 1300～1500
訪問先：高知港防波堤周辺、釣具店、はりみマリーナ、漁協高知県支所
実施者：交通課2名、警備課1名
内　容：釣り人による死亡事故が続発し、何れも救命胴衣を未着用だったことから、救命胴衣を着用すること、気象警報等が発令されている場合は、十分注意し、連絡手段を確保するよう指導した。
報道関係者：NHK、高知新聞

会　務　報　告

会 務 報 告

第３回　業務運営会議

１　日　　時　　平成24年7月18日(水)12:00～13:00

２　場　　所　　商船三井ビル　7F　会議室

３　出 席 者　　(順不同・敬称略)

代表理事	福 間 和 之	公益社団法人 神戸海難防止研究会会長
業務執行理事	鈴 木 三 郎	副会長　神戸大学名誉教授
〃	村 田 勝 久	副会長　内海水先区水先人会会長
〃	根 本 正 昭	副会長　(株)商船三井執行役員
		(代　北田　正昭　関西支店副支店長)
〃	世 良 邦 夫	公益社団法人 神戸海難防止研究会専務理事
〃	山 本 幸 典	〃　常務理事
オブザーバー	竹 口 信 和	大阪湾水先区水先人会会長
〃	小 島　茂	(社)日本船長協会会長
		(代　今西　邦彦　技術顧問)
〃	佐々木 真 己	川崎汽船(株)取締役専務執行役員
		(代　松島　豊　関西支店副支店長)
〃	秋 山　信	日本郵船(株)関西支店長
		(代　黒田 富治　関西支店長代理)
〃	須 貝 壽 榮	元神戸地方海難審判庁庁長
〃	改 発 康 一	神鋼物流(株)顧問
事 務 局	小野田 憲 明	公益社団法人 神戸海難防止研究会総務部長
〃	板 坂 茂 良	〃　総務部長代理

４　議　　題

(1) 業務報告等について

(2) その他

５　資　　料

席上配布

資料　　業務報告等

６　議 事 概 要

事務局から、委員の出欠確認の後、福間会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

事務局から資料について説明があり、議題については特に意見はなかった。

以　上

第４回　業務運営会議

１　日　　時　　平成24年9月18日(火)12:00～12:45

２　場　　所　　商船三井ビル　7F　会議室

３　出 席 者　　(順不同・敬称略)

代表理事	福 間 和 之	公益社団法人 神戸海難防止研究会会長
業務執行理事	鈴 木 三 郎	副会長　神戸大学名誉教授
〃	村 田 勝 久	副会長　内海水先区水先人会会長
〃	根 本 正 昭	副会長　(株)商船三井執行役員
		(代　北田　正昭　関西支店副支店長)
〃	世 良 邦 夫	公益社団法人 神戸海難防止研究会専務理事
〃	山 本 幸 典	〃　常務理事
オブザーバー	竹 口 信 和	大阪湾水先区水先人会会長
〃	小 島　茂	(社)日本船長協会会長
		(代　今西　邦彦　技術顧問)
〃	佐々木 真 己	川崎汽船(株)取締役専務執行役員
		(代　松島　豊　関西支店副支店長)
〃	秋 山　信	日本郵船(株)関西支店長
		(代　迫田　孝広　関西支店長代理)
〃	須 貝 壽 榮	元神戸地方海難審判庁庁長
〃	改 発 康 一	神鋼物流(株)顧問
事 務 局	小野田 憲 明	公益社団法人 神戸海難防止研究会総務部長
〃	板 坂 茂 良	〃　総務部長代理
〃	竹 田 和 子	〃　事業部員

４　議　　題

(1) 業務報告等について

(2) 常任委員の委嘱について

(3) その他

５　資　　料

席上配布

資料１　業務報告等

資料２　常任委員の委嘱（案）

６　議事概要

事務局から、委員の出欠確認の後、福間会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

事務局から資料について説明があり、議題については特に意見はなかった。

以　上

○ 事務日誌抄

(H24. 7. 1～H24. 9. 30)

月 日	曜日	時間	委 員 会 名	実 施 場 所
7. 10	(火)	1300	平成２４年度第４回船積危険品研究委員会	商船三井ビル７Ｆ会議室
7. 18	(水)	1200	第３回業務運営会議	商船三井ビル７Ｆ会議室
7. 23	(月)	1500	第３回月例会	こうべまちづくり会館
8. 8	(水)	1330	平成２４年度大阪湾における交通流交差海域等の安全確保に関する調査研究第１回委員会	神戸ポートタワーホテル
9. 3	(月)	1330	Ａ社着離桟に係る航行安全対策調査第１回委員会	パレス神戸
9. 11	(火)	1300	平成２４年度第５回船積危険品研究委員会	商船三井ビル７Ｆ会議室
9. 13	(火)	1400	平成２４年度津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策調査第１回委員会	神戸ポートタワーホテル
9. 18	(火)	1200	第４回業務運営会議	商船三井ビル７Ｆ会議室
9. 20	(木)	1500	第４回月例会	こうべまちづくり会館